

第 12 期

事 業 報 告 書
決 算 報 告 書

自 令和 5 年 4 月 1 日
至 令和 6 年 3 月 3 1 日

公益財団法人 復 康 会

令和5年度 事業報告書

も く じ

I. 今期の概況	1
II. 事業活動	3
III. 理事会・評議員会の開催	4
IV. 活動報告	
[1] 軽費診療	6
[2] 精神保健相談・健康相談活動	6
[3] 研究発表	7
V. 医療活動	
[沼津中央病院グループ]	11
[鷹岡病院グループ]	17
[沼津リハビリテーション病院グループ]	20
VI. 福祉活動	
[本部・社会復帰事業部]	23
VII. 地域貢献活動	
[1] 講演開催状況	27
[2] 嘱託医の受託	30
[3] 実習病院の受託	30
[4] 大学・看護学校等への講師派遣	31
[5] 関連諸団体の活動	32
[6] 公的機関の医療・福祉活動への協力	33
[7] 受託事業	36
VIII. 職員配置状況	37

I-III 事業報告

I. 今期の概況

復康会は、第5次中長期経営計画（令和5（2023）年4月～令和10（2028）年3月）を新たに策定し、本年度はその初年度にあたる。

中長期計画では、法人理念「愛・信頼・貢献」を基軸に基本方針、重点目標、重点課題を定め、具体的な内容を示す事業計画により構成される。第5次計画では、基本方針4項目を踏襲しつつ、その時々
の問題提起や内外動向にマッチするよう修正された。大きな考え方の転換として、人権意識の向上と医療にとどまらない現状の法人業務をふまえたサービス概念の拡大を反映させたほか、人材を経費ではなく資源として認識し最大活用していく考えを採用し、全法人的に組織として経営に取り組む姿勢を明確化した。健全な経営は「目指す」のではなく「実現する」と改め、成果を求める姿勢を強調した。

こうした計画の骨子変更は、より具体的な内容を明記する重点目標、事業計画、そして各事業所グループの計画に浸透するよう手順化し、各人が決意を新たに日々業務に取り組むことにより、法人理念「愛・信頼・貢献」を具現化できるよう策定された。

本計画は初年度を終えたばかりであり、評価を行うには時期尚早であるが、国の動向である精神保健福祉法改正、診療報酬などの制度改定による影響もあり、少しずつ進捗している印象を持つ。

	第4次中長期経営計画	第5次中長期経営計画
基本理念	愛・信頼・貢献	愛・信頼・貢献
基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 人間愛に基づき、<u>患者等の視点に立った医療を行います。</u> 法人内外の連携を深め、地域社会の医療・福祉に貢献します。 働き甲斐のある職場をつくり、人材育成に努めます。 健全な経営を<u>目指します。</u> 	<ol style="list-style-type: none"> 人間愛に基づき、<u>人権および当事者視点に配慮した良質なサービスを提供します。</u> 働き甲斐のある職場をつくり、人材育成に努めます。 法人内外の連携を深め、地域社会の医療・福祉に貢献します。 <u>全組織的な取り組みにより、健全な経営を実現します</u>
目標	地域における専門分野の中核医療集団として、公益財団法人の責務を果たし、その事業を継続運営していく	公益財団法人の責務として、専門的なサービスの持続的な提供によって地域に貢献する。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <u>医療を必要とする人に、即時に医療提供ができる体制の構築</u> <u>多様な精神疾患、神経難病、回復期リハビリテーション等専門分野に関する高水準の医療の提供</u> <u>入院患者の地域移行支援の強化とともに、地域の医療機関や社会資源との連携を強め、地域包括ケアシステムも視野にいれた、地域生活支援ネットワークを構築する</u> <u>適正な人材確保と職員個々の能力向上を支援していく</u> <u>法令を遵守し、健全な経営を維持する</u> <u>新しい給与体系の定着及び人事考課制度の検討</u> 	<ol style="list-style-type: none"> <u>良質な医療・福祉サービスの展開</u> <ol style="list-style-type: none"> <u>地域に責任を持った包括的で継続的な医療・福祉サービスの提供</u> <u>公平で敏感な即応型医療の実践</u> <u>適切で整合な仕事の探求</u> <u>人権意識と当事者中心理念の浸透</u> <u>マネジメント体制の強化</u> <ol style="list-style-type: none"> <u>持続的な人材の確保・活用・育成とそのため体制構築</u> <u>合理的な経営計画と法人運営による組織の健全化</u> <u>全組織的な経営参画</u> <ol style="list-style-type: none"> <u>個々の職員による経営意識の向上</u> <u>法人内各領域の有機的協働による機能的・効率的な組織支援</u>

社会動向としては、令和5年5月に COVID-19 の感染法上の位置づけが5類に変更され、人々が活動を再開するとともに、世界的な紛争の激化、石川県能登半島地震に代表される大災害の発生、物価高騰と政府の賃上げ要請、歴史的な円安等が少なからず法人運営に影響している。

病床稼働率は、コロナ禍の低水準からは脱したものの、沼津リハビリテーション病院では回復までに時間を要した。補助金収入が終了していることもあり、法人全体としての収支目標を達成できなかった。外来数は年々低減の一途で、おそらく医師の開業志向や、精神保健福祉領域と高齢者向けの入所施設数の増加が影響しているが、一人ひとりの利用者に費やすサービスの質は向上している。精神保健福祉サ

ービスを提供する社会復帰事業部は増益傾向を示し、現場の努力として評価できる一方、世間では企業の業界参入などによる不適切事例等もみられ、質を維持できるよう緊張感をもって取り組む必要性を感じる。また法人の財務・経理手続きとして、本部負担金を復活した。これは各事業所が経費を意識して業務に取り組めるよう、健全経営を推進する目的であり、ここ数年来の業績推移を検討したものである。

背景に種々の社会変化がある中、経営課題が浮上したものの、地域に責任を持った形での専門医療（地域精神保健と精神科救急医療、回復期リハビリテーション）の提供は良質を維持しつつ継続されており、関係各所からの評価・信頼を得ている。多様化する精神科医療ニーズ（児童思春期、認知症、依存症、摂食障害、発達障害等）、指定難病や高齢者の慢性疾患療養および在宅医療ニーズへの対応も先進的に取り組んでいる。

本年元旦に発生した能登半島地震に対しては、災害拠点精神科病院として県の指定を受ける沼津中央病院より DPAT 先遣隊が発災後早々に出動した。身体的拘束のゼロ化を達成した沼津中央病院は、業界内外から大きな関心が寄せられ、今も大きな反響が続いている。ピアサポーターとして当事者雇用を開始した沼津中央病院では、ピア活動が発展的であり、医療の質向上に好影響を残している。

地域包括ケアシステムの構築と権利擁護の推進を掲げた改正精神保健福祉法や、令和6年度診療報酬改定等の大規模制度変更に対し、各事業所はそれら制度の運用開始に向け準備を整えた。

人材育成面では、精神科専門医制度の専門研修プログラムの運用を継続しており、専門医資格取得等の成果を上げる一方で指導的医師の定着には課題が残る。奨学金制度は各職域での活用を推進し、関係機関への情報提供に努め、随時応募者を得ている。働き方改革に向けた対応では、職員の意識づけや理解は進んだものの、納入業者の選定ミスにより勤怠システムの導入に失敗し、課題を残している。職種を問わず、人材確保には課題も多く、今後に向け外国人雇用などの検討を開始した。

物価高騰と政府の賃上げ要請に対しては、診療報酬制度の上げ幅が不十分で、業界全体が躊躇する中、優良人材の確保と流出防止、有能な職員諸氏への評価と感謝、モチベーション向上を目的に、経営状況の推移も踏まえ、法人として令和6年度のベースアップを定期昇給と別に決定した。当法人としては、こうした対応が、経費上昇を上回る収益増につながるものと認識している。

本年度において、新規事業の開始はなかった。サポートセンター「いとう」は同「りりぶ」への呼称変更を行った。ハードウェアについて、建築案件等の大規模な施設整備の実施は無かった。

重点目標(第5次中長期経営計画における重点課題を踏襲)

1. 良質な医療・福祉サービスの展開
 - 1) 地域に責任を持った包括的で継続的な医療・福祉サービスの提供
 - 2) 公平で敏感な即応型医療の実践
 - 3) 適切で整合な仕事の探求
 - 4) 人権意識と当事者中心理念の浸透
2. マネジメント体制の強化
 - 1) 持続的な人材の確保・活用・育成とそのため体制構築
 - 2) 合理的な経営計画と法人運営による組織の健全化
3. 全組織的な経営参画
 - 1) 個々の職員による経営意識の向上
 - 2) 法人内各領域の有機的協働による機能的・効率的な組織支援

II. 事業活動

1. [公益目的事業]

① 地域に必要な専門分野の医療サービスを提供する事業

・沼津中央病院

県の精神科救急医療体制整備事業にておける常時対応型施設と休日夜間電話相談（指定）の継続については、例年通り活発に運用し、本年も県下最大の診療数、相談数を計上しその活動は十分であった。また、長期入院者が地域で生活できるための基盤活用（セジュール新大橋、法人内グループホームの有効活用）は、セジュール新大橋の入居率は90%となった。

・鷹岡病院

県の精神科救急医療体制整備事業にておける常時対応施設と休日夜間電話相談（指定）の継続については、例年通り活発に活動した。

認知症疾患医療センターは、専門医療相談・鑑別診断及び初期対応・研修会の開催を通じて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWEB等も交えて情報発信を行った。また、富士市認知症初期集中支援推進事業を本年度も受託し、構成される専門職チームによる訪問活動等を実施した。

・沼津リハビリテーション病院

回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中を中心とする神経疾患、大腿骨近位部骨折を中心とする外傷を主たる対象としつつ、幅広い疾患や合併症にも対応するよう努め、急性期病院の後方支援病院としての役割を担った。また、療養病棟では、指定難病である神経疾患を中心として合併症にも対応しつつ、在宅ケア例に対するリハビリテーション介入を伴う支援に努めた。地域在宅困難例、回復期非対応例にも可能な限り対応しながら、在宅復帰への支援に積極的に取り組んだ。

② 障害福祉サービス事業

・社会復帰施設

障害種別を問わず、各事業所市町を中心に障害者の地域での暮らしに関する相談、住居、就労等に関する支援を広域的に実施。また、地域行事への参加や当事者活動への協力、ボランティアの受け入れ等、普及啓発活動を通して、地域に開かれた障害福祉サービス事業所運営を行った。

③ 介護サービス事業

・通所リハビリテーション

感染対策に配慮しながら、サービス提供を継続した。

・訪問看護ステーション

感染防止に細心の注意を払いながら地域における関係機関との連携に努め、自宅での看取りなどの希望にも可能な限り対応した。4名の看護職員により24時間緊急対応を継続した。また、今年度小児の訪問も実施した。

④ 医師・看護師その他医療スタッフ育成のための学生教育実習及び臨床研修への協力事業

・沼津中央病院

精神科専門医制度における専門研修プログラム機関研修施設について、近隣協力機関の協力のもと、募集数、登録数ともに確保できており順調に運営している。実習病院の受託については、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、事務職などについて例年通り行うことができた。

・鷹岡病院

研修医（初期、専門研修2名）、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師、臨床心理士の実習生の受入れを行った。

・沼津リハビリテーション病院

大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成に協力した。

⑤ 専門知識や技術向上のための研究協力事業

・沼津中央病院

専門上位資格の取得（可能な限り指定医、専門医取得を目指す）に関し、精神保健指定医の資格を2名が取得した。種々の厚生労働科学研究に協力し、個々の学術活動も継続された。

・鷹岡病院

摂食障害治療について浜松医科大学と情報共有を行った。

・沼津リハビリテーション病院

令和2年度からの静岡県が行う地域リハビリテーション強化推進事業において講演会を実施し、地域リハビリテーション支援センターとしての機能を果たした。

⑥ 無料相談、助言事業

・院内無料精神保健相談

沼津中央病院、大手町クリニック、あたま中央クリニック、鷹岡病院、富士メンタルクリニックの5拠点におけるIV活動報告[2]-②の実績参照。

・助言事業

静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして駿東田方圏域自立支援協議会運営に貢献した。

⑦ 保健福祉普及のための啓発事業

・外部機関からの要請に対し、例年通り多種多様な委員を担うと共に、地域自立支援協議会の運営に協力した。

・社会復帰事業部では、沼津市、伊豆の国市からの委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。

2. [収益事業]

・特別の療養環境の提供に関する事業

より快適な療養環境を希望する利用者の要望に応え、適切な料金にて個室等を提供した。

・日常の支援に関する事業

入院患者の日常生活向上のため、生活に必要な衣類等の洗濯や生活物品等の調達を患者に代わって行う、あるいは委託可能な業者を紹介する等の事業を行った。

・不動産賃貸業

病院内に売店を設置し、業者に賃貸して運営を委託中。その他、静浦ホテル跡の土地及びヒルズ岡の宮、セジュール新大橋の賃貸、駐車場運営等を行っている。

3. [その他の事業]

・福利厚生事業

ウィスタリアン・ライフクラブ箱根への入会を継続し、利用者は3名だった。

III. 理事会・評議員会の開催

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
第50回 理事会	R5.5.25	理事 7名 監事 2名	1. 令和4年度事業報告(案)について 2. 令和4年度決算報告(案)について 3. 令和5年度の賞与支給について 4. 人事システム更新等に伴う諸規程の改定について 5. 経理規程の改定と法人クレジットカード規程の制定について 6. 理事候補者の選出について 7. 理事と法人との取引について 8. 定時評議員会の招集(案)について 報告事項 ① 理事長・常務理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告について

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
第 20 回 評議員会	R5. 6. 29	評議員 5 名 監事 1 名	1. 令和 4 年度事業報告(案)について 2. 令和 4 年度決算報告(案)について 3. 理事の選出について
第 51 回 理事会	R5. 6. 29	理事 9 名 監事 1 名	報告事項 1 理事の交代について
第 52 回 理事会	R5. 12. 21	理事 8 名 監事 2 名	1. 令和 5 年度第 1 次補正予算について 2. 就業規則の改定について 3. 特別職の定年再延長について 4. 電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務 処理規程の制定について 報告事項 ① 令和 5 年 9 月期の業績について ② 理事長、常務理事及び業務執行理事の職務執行状況報 告
第 53 回 理事会	R6. 3. 21	理事 7 名 監事 2 名	1. 令和 5 年度徴収不能損失について 2. 令和 6 年度事業計画(案)について 3. 令和 6 年度予算(案)について 4. 給与規程等の改定について 5. 奨学金貸与制度の改定について 6. 役員賠償責任保険契約について 7. 資産運用ガイドラインの見直しについて 報告事項 ① 令和 5 年度 期末業績予想について ② 資産運用報告について ③ 令和 5 年度 公益通報報告について

以上

IV. 活動報告

〔1〕 軽費診療

医療別		生保患者		減免	減免及び 生保患者	取 扱 延人数	割合%
		単独	併用				
入院	延人数	24,307	41	0	24,348	167,469	
外来	延人数	1,085	13,476	0	14,561	115,964	
計		25,392	13,517	0	38,909	283,433	13.7%

〔2〕 精神保健相談・健康相談活動

① 院外精神保健相談

病 院 別	回 数	内 容	担 当	主 催 又 は 後 援
沼津中央病院	年1回	精神保健福祉総合相談	森本 宇	静岡県東部健康福祉センター
	年1回	精神保健福祉総合相談	中田 太郎	静岡県東部健康福祉センター
	年1回	精神保健福祉総合相談	山田 俊輔	静岡県東部健康福祉センター
	年1回	精神保健福祉総合相談	藤田 裕加里	静岡県東部健康福祉センター
鷹岡病院	年12回	富士市職員メンタルヘルス相談	石田多嘉子	富士市役所
	年2回	精神保健福祉総合相談	高木 啓	静岡県富士健康福祉センター
	年2回	静岡県職員健康相談	高木 啓	静岡県経営管理部
	年2回	保護者カウンセリング事業	高木 啓	富士児童相談所
	随時	教職員面接指導	高木 啓	富士市教育委員会
	随時	健康相談・面接指導	高木 啓	富士地域産業保健センター
	年6回	ストレス相談	久保 伸年	富士市保健部健康対策課
	年6回	〃	鈴木 順一	〃
	年2回	県立職業訓練校精神保健福祉相談	山口 雅弘	静岡県経済産業部
	随時	犯罪被害者面接相談	久保 伸年	静岡被害者支援センター
年2回	ひきこもり家族個別相談	久保 伸年	KHJ 静岡県「いっぶく会」	
社会復帰事業部	年6回	伊豆市サテライト相談会	青木大輔 / 池田友美	伊豆市
	年12回	沼津市障害者専門相談会	内藤 治子	沼津市社会福祉協議会

② 院内無料精神保健相談・健康相談

(件)

病院別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
沼津中央病院		132	85	95	107	103	93	73	90	71	56	86	94	1,085
大手町クリニック		608	603	664	636	690	612	655	634	649	611	614	639	7,615
あたま中央クリニック		110	115	122	116	112	116	78	94	94	71	48	72	1,148
鷹岡病院		22	32	33	23	6	17	56	33	9	29	32	39	331
富士メンタルクリニック		0	3	0	3	1	6	5	4	3	0	2	2	29

[3] 研究発表

① 学会・シンポジウム・研修会等への研究発表

沼津中央病院

1. 第119回日本精神神経学会学術総会 シンポジウム61「精神科身体合併症の診療には、救急と精神科両方での臨床経験を持つ救急医の育成も必要である」(指定発言) パシフィコ横浜ノース 杉山 直也 2023/6/22
2. 第119回日本精神神経学会学術総会 シンポジウム28「精神科救急医療の均てん化と偏在対策」パシフィコ横浜ノース 杉山 直也 2023/6/23
3. 第119回日本精神神経学会学術総会 シンポジウム84「本質的な行動制限最小化の方策と行政の役割について」パシフィコ横浜ノース 杉山 直也 2023/6/24
4. 第27回日本看護管理学会学術集会 パネルディスカッション5「精神保健福祉法改正の今こそ考える！人権擁護者としての看護職のあり方」東京国際フォーラム 杉山 直也 2023/8/26
5. 第31回日本精神科救急学会学術総会 理事長特別講演「行動制限最小化と改正精神保健福祉法について」KDDI 維新ホール 杉山 直也 2023/10/6
6. 第31回日本精神科救急学会学術総会 シンポジウム3「精神科救急でのPRNを深掘りする」KDDI 維新ホール 杉山 直也 2023/10/6
7. 第31回日本精神科救急学会学術総会 「公開PEECコース」KDDI 維新ホール 日野 耕介 2023/10/6
8. 第31回日本精神科救急学会学術総会 夜間救急患者を受入ながらの看護 佐藤 義崇 2024/10/6
9. 精神科救急学会ポスターセッション「休日・夜間精神医療相談窓口における頻回利用者(リピーター)への対応について」 澤野文彦、久野満津代、北舘美沙依 2023/10/6～7
10. 第12回日本精神科医学会学術大会 PPST 研究会シンポジウム「実行的な行動制限最小化活動の普及と実践に向けて～身体拘束ゼロ化を通じて～」熊本城ホール 杉山 直也 2023/10/13
11. 令和5年度自殺未遂者ケア研修 精神科救急版 ワークショップ「自殺未遂者対応ガイドラインの説明」AP市ヶ谷 杉山 直也 2023/10/29
12. 令和5年度静岡県自殺未遂者ケア研修会 ワークショップ「自殺未遂者対応ガイドラインの説明」 県静岡総合庁舎 杉山 直也 2023/11/26
13. 令和5年度静岡県行動制限最小化委員会 講義「事前アンケートを元にした講義及び意見交換」 静岡パルシェ 杉山 直也 2024/1/11～12
14. 令和5年度東京都自殺未遂者支援研修 「自殺未遂者へのケア-病院前救護の現場からできること-」 オンライン 日野 耕介 2024/1/17
15. 令和6年度東京都自殺未遂者支援研修 「自殺未遂者へのケア-病院前救護の現場からできること-」 オンライン 日野 耕介 2024/1/21
16. 第3回精神科救急医療体制整備研修 講義「精神科救急医療の現状と課題」 オンライン 杉山 直也 2024/2/10
17. 東京精神医学会第130回学術集会「統合失調症の初回治療後における治療継続性の課題-両親の罹病経験やリカバリーが病識獲得に寄与した1例-」ステーションコンファレンス東京 藤田 裕加里 2023/3/9
18. 第42回日本社会精神医学会 「精神科救急入院病棟におけるピアスタッフを含めた医師決定支援の実施報告」東北医科薬科大学小松島キャンパス 長谷川 花 2024/3/14
19. 一般社団法人日本病院会・全国病院経営管理学会共同事業「2月研修会」～診療報酬改定を見据えた診療報酬事例～ 田畑 久美 2024/2/26

- | | | |
|---------|-----------------------------------|-----------|
| 1. 福原啓史 | 当院におけるブレクスピプラゾールの後方視的調査 | 2024/1/21 |
| 2. 谷口弘樹 | 当院における持続性注射剤（L A I）のカルテ調査結果～4年転帰～ | 2024/1/29 |

- | | | |
|---------|---|--------------|
| 1. 鈴木康弘 | Pusher 症候群症例に対する主観的垂直認知検査の経過
～関節角度計を用いた方法の経験～ | 2023/6/17～18 |
| 2. 白井伸洋 | 当院の回復期リハビリテーション病棟入院患者の送迎を介助歩行で開始する基準の
検討 第26回 静岡県理学療法学会 学術大会 | 2023/6/17～18 |
| 3. 平柳良太 | パーキンソン病患者の空間における反応時間の特徴
第26回 静岡県理学療法学会 学術大会 | 2023/6/17～18 |

② 研究論文・総説・著書発表

【論文発表】

- Kishimoto, Taishiro; Kinoshita, Shotaro; Kitazawa, Momoko; Hishimoto, Akitoyo; Asami, Takeshi; Suda, Akira; Bun, Shogyoku; Kikuchi, Toshiaki; Sado, Mitsuhiro; Takamiya, Akihiro; Mimura, Masaru; Sato, Yasunori; Takemura, Ryo; Nagashima, Kengo; Nakamae, Takashi; Abe, Yoshinari; Kanazawa, Tetsufumi; Kawabata, Yasuo; Tomita, Hiroaki; Abe, Koichi; Hongo, Seiji; Kimura, Hiroshi; Sato, Aiko; Kida, Hisashi; Sakuma, Kei; Funayama, Michitaka; Sugiyama, Naoya; Hino, Kousuke; Amagai, Toru; Takamiya, Maki; Kodama, Hideyuki; Goto, Kenichi; Fujiwara, Shuichiro; Kaiya, Hisanobu; Nagao, Kiichiro: Live Two-way Video Versus Face-to-Face Treatment for Depression, Anxiety, and Obsessive-Compulsive Disorder: A 24-Week Randomized Controlled Trial. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*. DOI: 10.1111/pcn.13618

【著書】

- 杉山直也：精神科救急. 今日の治療指針 2023 年版 私はこう治療している

【総説】

- 杉山直也：精神科領域における実効的な行動制限最小化の普及について. シンポジウム 23「曲がり角に立つ精神科入院医療—マクロ状況と精神科臨床から—」. *精神神経学雑誌* 125: 779-787, 2023
- 杉山直也：精神科救急の過去・現在・未来～学会発足 30 年の節目に～. 特別講演. *精神科救急* 26, 3-8, 2023
- 杉山直也：総論. シンポジウム 2「日本精神科救急学会治療ガイドライン 2022」. *精神科救急* 26, 13-18, 2023
- 杉山直也：精神科救急医療ガイドライン 2022. 特集「統合失調症診療のフロントライン Part 1」. *臨床精神医学* 52 (4), 405-410, 2023

【報告書】

- 杉山直也, 兼行浩史, 来住由樹, 塚本哲司, 花岡晋平, 平田豊明, 藤井千代, 藤田潔: 精神科救急医療体制に関する研究～医療提供体制と患者像の相応性の観点による大規模調査～. 令和 4 (2022) 年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (障害者政策総合研究事業), 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する政策研究 (22GC2003), 分担研究報告書, 2023

【特別講演】

1. 杉山直也：これからの精神科救急医療に求められること～精神保健福祉法改正と身体拘束ゼロ化を中心に～. 第31回日本精神科救急学会学術総会, 2023, 10, 5, 山口

【シンポジウム】

1. 杉山直也：指定発言. シンポジウム61「防ぎえる合併症死亡を減らすため、精神科身体合併症の治療の場を考える」. 第119回日本精神神経学会学術総会, 2023, 6, 23, 横浜
2. 杉山直也：精神科救急医療の均てん化と医師偏在対策. 委員会シンポジウム28「精神科医の偏在対策は必要か？：現状と将来への影響」第119回日本精神神経学会学術総会, 2023, 6, 23, 横浜
3. 杉山直也：本質的な行動制限最小化の方策と行政の役割について. シンポジウム84「曲がり角に立つ精神科入院医療－課題の多様性から将来を探る」. 第119回日本精神神経学会学術総会, 2023, 6, 24, 横浜
4. 杉山直也：実効的な行動制限最小化活動の普及と実践に向けて～身体拘束ゼロ化を通じて～. パネルディスカッション5「精神保健福祉改正の今こそ考える！人権擁護者としての看護職のあり方」, 第27回看護管理学会, 2023, 8, 26, 東京
5. 杉山直也：根拠に基づいたPRNの推奨は可能か. シンポジウム3「精神科救急でのPRN (pro re nata)を深掘りする」. 第31回日本精神科救急学会学術総会, 2023, 10, 7, 山口
6. 杉山直也：実効的な行動制限最小化活動の普及と実践に向けて～身体拘束ゼロ化を通じて～. PPST研究会シンポジウム. 第12回日本精神科医学会学術大会, 2023, 10, 13, 熊本

【学会発表】

1. 福田紘之, 日野耕介, 長谷川花, 杉山直也：多彩な精神症状を呈する自閉スペクトラム症の薬物治療における課題—強迫症状にSSRIが奏功した1自験例より—. 東京精神医学会第127回学術集会, 2023, 3, 4, 東京
2. 澤野文彦, 久野満津代, 北舘美沙依, 杉山直也：休日・夜間精神科医療相談窓口における頻回利用者（リピーター）への対応について. 第31回日本精神科救急学会学術総会, 2023, 10, 7

沼津中央病院（日野耕介）

【論文発表】

1. Hidehito Miyazaki, Kousuke Hino, Tsubasa Ito, Takeru Abe, Munetaka Nomoto, Taku Furuno, Ichiro Takeuchi, Akitoyo Hishimoto: Relationship of emergency department visits for suicide attempts with meteorological and air pollution conditions. *Journal of affective disorders*. 2023 Jul 15:333:154-160.
2. Taishiro Kishimoto, Shotaro Kinoshita, Momoko Kitazawa, Akitoyo Hishimoto, Takeshi Asami, Akira Suda, Shogyoku Bun, Toshiaki Kikuchi, Mitsuhiko Sado, Akihiro Takamiya, Masaru Mimura, Yasunori Sato, Ryo Takemura, Kengo Nagashima, Takashi Nakamae, Yoshinari Abe, Tetsufumi Kanazawa, Yasuo Kawabata, Hiroaki Tomita, Koichi Abe, Seiji Hongo, Hiroshi Kimura, Aiko Sato, Hisashi Kida, Kei Sakuma, Michitaka Funayama, Naoya Sugiyama, Kousuke Hino, Toru Amagai, Maki Takamiya, Hideyuki Kodama, Kenichi Goto, Shuichiro Fujiwara, Hisanobu Kaiya, Kiichiro Nagao; J-PROTECT collaborators: Live two-way video versus face-to-face treatment for depression, anxiety, and obsessive-compulsive disorder: A 24-week randomized controlled trial. *Psychiatry Clin Neurosci* 2023 Dec 15.

【著書】

1. 日野耕介：(分担) 研修医サバイバルブック, 中外医学社, 2023
2. 日野耕介：自殺企図：外傷. ER・救急で役立つ精神科救急A to Z, 日本医事新報社, 2024

【総説】

1. 宮崎 秀仁、日野 耕介：**【コロナ禍における自殺関連問題】** コロナ禍における急性期総合病院での自殺未遂者ケア. 総合病院精神医学雑誌 35 巻 2 号 Page121-128 (2023. 04)
2. 日野 耕介, 橋本 聡, 寺地 沙緒里, 河寫 讓, 手塚 幸雄, 牧瀬 わか奈, 佐々木 由里香, 三宅 康史：**【コロナ禍における自殺関連問題】** COVID-19 流行期に救急医療従事者が自殺未遂者対応を学ぶための取り組み. 総合病院精神医学雑誌 35 巻 2 号 Page129-139 (2023. 04)
3. 日野 耕介, 宮崎 秀仁：**【救命救急センターに搬送される自殺企図者に対する精神科医の役割】** 救命救急センターを拠点とする自殺未遂者対応 近年の傾向および COVID-19 流行がもたらした変化. 精神神経学雑誌 (0033-2658) 125 巻 10 号 Page868-875 (2023. 10)
4. 日野 耕介：**よくわかる！ 精神疾患対応これ 1 冊：内科医と精神科医の連携のために. 精神科救急体制について. 診断と治療 112 巻増刊号 Page98-102 (2024. 3)**

V. 医療活動

【沼津中央病院グループ】

1. 概要

令和5年度は、5月にCOVID-19の感染法上の位置づけが5類に変更され、長らく続いた緊張感がやや緩和された。社会的な要因としては、人々が活動を再開するとともに、世界の各地で紛争が激化し、新年早々には石川県能登半島を中心に大災害に見舞われた。当院は静岡県の災害拠点精神科病院に指定されており、石川県とは同じ東海・北陸地方に位置するとして、発災後早々にDPAT先遣隊が現地入りし、任務を遂げて無事帰還した。経済面では、物価上昇が進み、政府からの賃上げ要請に対し、法人として令和6年度の昇給を決定した。

法人全体として、第5次中長期経営計画（令和5（2023）年4月～令和10（2028）年3月）が新たにスタートし、沼津中央病院でも運営方針を刷新した。令和5-6年と2段階で実施される改正精神保健福祉法に対応できるよう、地域共生社会の実現に向けた内容とし、当事者性を強調するとともに、法人理念に沿ってサービス提供できるよう目標を定めた。令和6年度からの診療報酬改定や働き方改革に向け、法人として人的資本経営の方針を打ち出して経営の安定化を図ったところ、折しも物価高騰や法人の賃上げへの対応となった。中長期経営計画の初年度が終了し、現時点ではこれらの目標を達成するための初期段階にあり、特に職員の意識づけは時間を要す特徴もあり未だ途上にあるが、大きな遅れなどはなく、概ね順調な成果を上げると同時に、令和6年度の総合的な制度改定に良い準備ができたものと考えている。

運営方針

地域共生社会の実現に向け、信頼され、選ばれる医療機関として、責任感・気概・志をもって当事者とともに使命に取り組むとともに、安全で質の高いサービスを提供し続けられるよう、自己を高め、他者を信頼し、社会に貢献していく。

【評価】

1. 概要を参照のこと

重点目標

1. 人的資本経営のための人材育成と対応力の強化

- 1) 好人材を引き寄せられるよう、労働条件が良好で、業務経験機会があり、指導体制が整い、雰囲気良く、活気があり、魅力ある職場を実現する。
- 2) 働き方改革への対応を通じ、個々の働き手が健全で、かつ公私ともに自己実現できるような労働環境を実現する。
- 3) 困難な業務課題に対しても適切で、かつ個々人が低負担で無理なく対応できるよう組織力を強化し、常に専門的な向上心を高める意欲を喚起できるような職場環境を実現する。
- 4) 職域に応じて、まずは各個人が標準化されたスキルを体得し、そこからさらにステップアップして専門性を高め、課題も克服できるよう、効果的な人材育成のための院内教育システムの構築を目指す。

【評価】

- 1) については現況において実現できていると考えるが、引き続き継続し、向上させていく必要がある。
- 2) に関して、組織としての理解は進んだが、法人の勤怠システム導入は業者トラブルにより未達成。
- 3～4) については部分的な達成があるが、現時点で努力の途上であり、今後の推進が必要である。

2. 医療サービス向上

- 1) 常に地域生活を見据えたケアを提供し、包括的で切れ目がなく、統合的で公平なサービス体制を構築する。
- 2) 地域生活の中で生じる急性の危機状況に即応できるよう、良質で高水準な救急医療サービスを継続的に提供する。
- 3) 当事者視点に立脚し、自立の促進を目指して、権利と可能性を追求したケア理念に基づくサービスを提供する。
- 4) 常に探求心をもってものごとに取り組み、より確かなエビデンスと合理性に基づいたサービスの提供を目指す。

【評価】

1～2) については現時点で可能な水準を実現していると考ええる。3～4) についても組織としての理解や取り組みが推進されているが、さらなる向上が望ましい。

3. 地域に責任を持つ

- 1) 静岡県東部の精神科医療における中核的医療機関としての自覚を保ち、全職員が気概と責任感を持って当事者サービスに従事する。
- 2) 地域社会の様々な分野と連携し、広い視野を持って地域貢献することを意識する。

【評価】

1) について、職員全員が強く意識して業務に当たれるよう、「地域に責任を持つ」とのスローガンを各機会でも周知啓蒙に努め、業務実践している。2) について、十分な活動には至っておらず、今後徐々に進めてゆきたい。

4. 合理的な経営戦略

- 1) 限られた人的資源を有効に活用し、組織がその目的や目標を無理なく達成できるよう、各従事者個人が数値目標を明確に意識し、ともに協力・準備して業務に従事する。
- 2) 少子高齢化等、時代の変化に伴う社会構造や制度・体制の変革に対応できるよう、効率的かつ合理的な病院経営を実現する。
- 3) 業務を支えている建造物、インフラストラクチャー等、病院資源に対する意識を向上させ、常に感謝の念を持つとともに、持続可能な開発目標に応じた設備運用を行う。

【評価】

1) に関し、人的資本経営の実践に向けた各個人の目標意識は少なからず推進されたが、さらなる向上が望ましい。2) について、外国人雇用の検討や国の制度の変更への準備を整えることができた。3) について随時職員意識を向上させる指揮命令を発し、適正な設備運用を行うことができた。

● 事業所ごとの活動（評価は本文中に反映）

1. 沼津中央病院

(1) 基本情報

- ①管理者 杉山直也
- ②病床数 270床
- ③所在地 沼津市中瀬町24番1号 TEL055-931-4100(代)
- ④診療科 精神科・心療内科
- ⑤主な届け出受理等：精神科救急急性期医療入院料、精神科急性期医師配置加算 1、精神科療養病棟入院料、精神病棟入院基本料 15:1、看護補助加算 1、感染対策向上加算 3、精神科ショートケア（大

規模)、精神科デイケア(大規模)、精神科作業療法、薬剤管理指導料、精神科訪問看護、静岡県東部精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、災害拠点精神科病院、日本医療機能評価機構認定(機能種別版評価項目 3rdG:Ver2.0)

(2) 医療活動

(ア) 法人内外連携による地域包括ケアサービス

- ・精神科救急医療体制整備事業における常時対応施設と休日夜間電話相談の指定を継続的に受け、例年通り運用している。
- ・医療と保健福祉の連動による包括的地域サービスの展開および地域共生社会への貢献を果たした。
- ・退院支援・退院後支援(社会資源との連携や行政事業等による取り組み)は十分な実績をあげている。
- ・診療パフォーマンスについては、入院・外来共に目標値に至らなかった。
- ・入院外医療サービスの強化(包括的ケアマネジメント等)は、十分な運用には届かなかった。

(イ) 多様なニーズへの対応

- ・児童思春期精神科診療は、例年通り浜松医科大学、横浜市立大学と連携し、診療実績も維持している。
- ・圏域内総合診療については、例年通り、静岡医療センター、沼津市立病院と良好な連携を維持している。
- ・治療プログラム(ぬま〜ぶ、リワークおよび就労支援プログラム、摂食障害、心理教育、急性期作業療法、協働意思決定(SDM: Shared Decision Making)、栄養指導)は、いずれも十分な活動を行った。
- ・クロザピンの組織的活用(適応判断のシステム化と計画的導入による安全性の確保)を計画的に実践した。
- ・修正型電気痙攣療法(m-ECT)は、昨年と同様に高稼働を維持している。
- ・持効性注射剤(デポ剤)は十分に活用できている。
- ・適正な薬物療法とそのための組織的な取り組みについて、診療部を中心に取り組み、部分的には課題を残す。
- ・隔離・身体拘束最小化については、ゼロ化プロジェクトの成果を継続し、国内の注目を受けている。
- ・精神療法の充実は、課題が残る。
- ・治療期(急性期・準急性期・退院支援)に応じたクリニカルパス、あるいは標準ケア手順の開発には至らなかった。
- ・災害派遣精神医療チーム(DPAT: Disaster Psychiatric Assistance Team)については、令和6年1月の能登半島地震の際に先遣隊として活動を行った。
- ・ピア活動の更なる推進を図るために、ピアの部署を医療相談課に確立し十分な活動を行えている。

(ウ) エビデンスに基づく標準医療の推進

- ・標準的な治療の推進について、診療部を中心に取り組んだ。
- ・厚生労働科学研究への協力は例年通り協力を行った。
- ・職域ごとの研究推進については、部署により偏りが見られた。
- ・レジストリの活用について、外部研究発表までの成果は得られなかった。
- ・2種の治験を受け、行っている。

(エ) 人材育成と強化、活用

- ・クライシス対応スキル（ディエスカレーション、自殺ハイリスク等）については、全職員参加を目標に継続的に取り組んでいる。
- ・定例研修（リスク、感染、行動制限最小化、虐待防止等）は、年度計画を立案し、計画通りに開催できている。
- ・専門上位資格の取得として、2名が指定医を取得した。
- ・働き方改革への対応として、日当直許可の再申請を行い受理された。
- ・精神科専門医制度 専門研修プログラム研修基幹施設を運用し、順調に育成できている。
- ・作業療法でボランティアを受け入れている。
- ・奨学金制度の活用、教育機関との連携を進めているが安定した人材確保には至っていない。

(3) 施設設備の整備計画

(オ) 既存建物設備の維持

- ・修繕計画に基づき維持に努めている。
- ・定期的な保守管理により、適切な設備更新（空調、電気、衛生等）ができている。

(カ) 人・環境にやさしい空間の創造

- ・癒し・休憩のとれる環境づくりとして中庭の整備を計画していたが着手できなかった。
- ・芸術的要素の積極的活用はほとんどできていない。
- ・地球環境に配慮した設備管理（省エネルギーへの取り組み）として、未着手であった非常灯のLED化の検討中

(4) 地域貢献活動

(キ) 公的機関への協力

- ・国、県、市町村、職能団体、研究機関、学術団体等からの要請に対して、十分に応需した。
- ・大学、看護学校等への講師派遣を例年通り協力した。
- ・実習病院について、看護師、精神保健福祉士、作業療法士の受託をした。
- ・他分野（企業等）との連携と貢献については実施がなかった。

(5) その他の活動

(ク) 情報管理の推進

- ・情報システムの適時更新に関しては、計画に則り検討、実施している。
- ・情報セキュリティ対策として、パソコンの入れ替え、勤怠システムの更新に合わせ必要なセキュリティ対策を行った。
- ・人工知能（AI）活用について、専門業者と検討を重ねているが活用については昨年から進んでいない。

(ケ) 広報活動

- ・情報発信機能の強化については、実施できなかった。

(コ) 感染症への対応

- ・新型コロナ、インフルエンザへの対応はできているが、他の感染症についての体制が未整備

(サ) 組織の健全化

- ・コンプライアンスの順守
- ・内部通報システムは、必要に応じて運用されている。
- ・第三者評価の実施はできていない。

2. 大手町クリニック

(1) 基本情報

- ① 管理者 志澤 容一郎
- ② 所在地 沼津市大手町3丁目1番2 エイブル・コア6F 代表 055-962-7371
- ③ 診療科 精神科・心療内科
- ④ 主な届け出受理事等 精神科デイケア(小規模) 精神科ショートケア(小規模)

(2) 医療活動

- ・外来・入院間での円滑で切れ目のない医療ケアの提供を目指し、例年通り行っている。
- ・安心して医療を受けられる・提供できる環境、体制の整備を行った。

(3) 施設設備の整備計画

- ・診療環境の継続的な改善に関してビルの老朽化による配管設備の不具合が多かった。(各階に使用不可トイレがある)

(4) 地域貢献活動

- ・例年通り、可能な限り地域の要請や活動に協力した。

(5) その他の活動

- ・適切な感染対策として、手指消毒、器物の消毒、換気等を継続的に実施している。

3. あたみ中央クリニック

(1) 基本情報

- ① 管理者 野田 寿恵
- ② 所在地 熱海市田原本町9-1 熱海第一ビル2F 代表 0557-83-7707
- ③ 診療科 精神科・心療内科

(2) 医療活動

- ・新患数は維持、微増できている。経験・実力のあるスタッフで運営できているが、スマートな医療体制という点では課題が残る。
- ・高齢者への治療ケアの体制として、長谷川式の実施、必要時には画像検査の依頼、地域支援者との連携は行えている。
- ・勉強会、研修会の実施、地域施設の見学については、コロナの影響が残っており、施設見学は行っていない。勉強会については薬の説明会を行い、知識のアップデートはできている。

(3) 地域貢献活動

- ・サポートセンター、地域包括、施設との連携は行えている。
- ・適切な感染対策として、検温、手指消毒、器物の消毒等を継続している。

4. 訪問看護ステーションふじみ

(1) 基本情報

- ① 管理者 飯塚 香織
- ② 所在地 沼津市中瀬町24番1号

(2) 医療活動

- ・地域包括ケアシステムも踏まえた関係機関との連携強化については、連絡や会議を通じて障害、介護分野との連携を図れている。
- ・自立を促しその人らしさを支える精神科訪問看護スキルの向上については、個々の実践の中で行っているが、全体での勉強会等は未実施

(3) 地域貢献活動

・地域の精神保健活動への協力として団体役員メンバーとして貢献、また看護学校の講師を例年通り受けている。

(4) 施設設備の整備計画

・来年度の電算システム導入を踏まえ、サーバー、プリンターは計画中だが、パソコン、スマホは更新した。

(5) その他の活動

・ルールに沿った適切な感染対策を継続し、ステーション内での感染もなく、業務への支障も来たさなかった。

入院・退院及び在院患者数

	期首在院数	期中入院数	期中退院数	期末在院数	期中延べ数	期中1日当たり
沼津中央病院	249	640	646	243	91,240	249.3

入院・外来取扱患者数

(定床：270床)

	入院		外来		デイケア 作業療法 (外来のみ)		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
沼津中央病院	91,886	251.1	16,123	54.8	8,166	33.3	24,289	82.6
大手町クリニック			20,556	84.2	3,877	18.2	24,433	100.1
あたみ中央クリニック			8,151	33.3			8,151	33.3

	訪問看護		作業療法 (再掲)	
	期中延	1日当	期中延	1日当
沼津中央病院			17,333	71.0
訪問看護ステーションふじみ	7,326	24.9		

【鷹岡病院グループ】

1. 概要

令和5年度は、「開かれた、選ばれる医療機関」として、医療を通じて社会に貢献できるよう重点項目を「利用者の視点に立った良質で安全な医療の提供」「地域の医療機関・社会資源との更なる連携」「人材の育成・確保」「病床稼働率の目標達成による安定した経営」「多様な精神疾患への対応」「訪問看護の増加」と定め、取り組んだ。

また、令和5年度も令和4年度に続き「病床稼働率を上げる」が最重要課題である事を職員に周知し安定した経営を目指し職員一丸となり取り組んだ。

2. 鷹岡病院

(1) 基本情報

- ①管理者：高木 啓 病床数 151床
- ②所在地：富士市天間1585番地 電話（代表）0545-71-3370
- ③診療科：精神科、心療内科
- ④主な届け出受理等：精神科救急急性期医療入院料1、精神療養病棟入院料、精神科デイケア（R5.4より小規模に変更 R6.1より大規模に変更）、精神科作業療法、精神科訪問看護、県富士圏域精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、認知症疾患医療センター（地域型）

(2) 医療活動

- ① 精神科救急事業については例年通り迅速な対応と受け入れを行った。
- ② 認知症疾患医療センター事業は、専門医療相談・鑑別診断・初期対応や研修会の開催を通じてWeb等を交えて情報発信を行った。医療連携協議会を5年ぶりに対面で実施し情報共有を行った。また、「富士市認知症初期集中支援推進事業」及び「認知症の人を皆で支える地域づくり推進事業」を今年度も受託し、専門職チームによる訪問活動等を実施した。
- ③ 病床利用適正化プロジェクトチーム及び制限緩和検討チームによる取り組みの継続と、入院調整会議において病床稼働状況、在院患者数の周知徹底を図り病床稼働率の確保を行った。
- ④ 長期入院患者へのクロザリル使用を促進し、精神科救急急性期医療入院料算定基準の確保を図った。
- ⑤ 訪問看護対象者の洗い出しを実施し、多職種による訪問看護を行い、訪問看護件数の増加を図った。
- ⑥ デイケアを4月より小規模変更したが、体制が整い令和6年1月より大規模に再度変更し、利用者の増加を図った。
- ⑦ 行動制限最小化に向け、行動制限最小化委員会、管理運営会議等において検討を行った。
- ⑧ 病棟機能の明確化を図り、病状に合わせたスムーズな転棟及び転院を行った。
- ⑨ 院内での事故、高リスクの事例に対し、原因分析と有効な再発防止策の立案と確実な評価を実施した。
- ⑩ 身体科救急医療機関である富士市立中央病院・富士宮市立病院や富士市・富士宮市の救急医療センターとの連携を引き続き図っている。
- ⑪ 令和6年度中の電子カルテの導入に向け、デモンストラーションの実施、機種を選定を行った。
- ⑫ 摂食障害治療について、昨年度に続き浜松医科大学との情報共有を行った。
- ⑬ うつ・自殺対策の取り組みとして、富士市・富士市医師会等と連携し紹介システムの再周知及び県と連携し自殺未遂者支援ネットワークの構築を図った。
- ⑭ 多様化する精神疾患への対応として富士児童相談所との連携を図った。

(3) 施設設備の整備計画

- ① 職員駐車場、デイケア駐車場の舗装工事を実施した。
- ② インボイス対応プログラムを導入した。
- ③ 正面玄関、グラウンド側入り口の車止め工事を実施した。
- ④ グラウンド側入り口の扉一式を交換した。
- ⑤ 災害備蓄品の定期更新を実施した。

(4) 地域貢献活動

- ① 公的機関、諸団体の精神保健福祉分野での協力、援助を行った。
- ② 研修医（初期、後期）、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師・臨床心理士の実習生の受け入れを行った。
- ③ 公的機関、地域企業へのメンタルヘルス分野での協力を行った。
- ④ 天間地区福祉推進事業への協力及び地域の住民、障害者施設、老人施設、福祉推進会参加の「天間ふれあいの日」については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため本年度も中止とした。
- ⑤ 「グループホームふじみ」や「サポートセンターほっと」と連携・協力し、富士地区の法人活動を推進した。
- ⑥ 富士市医師会及び職能団体事業へは、人的派遣等で協力を行った。
- ⑦ 富士市地域防災医療計画にある救護病院（特殊病院）の役割を担っている。

(5) その他の活動

- ① 安否コール（災害安否確認システム）による情報伝達訓練を実施した。
- ② 働き方改革関連法に沿って取り組みの検討を継続し、有給休暇取得の奨励や、医師の日当直業務の回数等を軽減することに取り組んだ。
- ③ 「利用者の視点に立った良質で安全な医療の提供」の資質向上については、教育研修会において、倫理・接遇に関連した院内研修を開催した。
- ④ 実践報告及び研究に取り組める体制を整備し、情報発信できる人材の育成に関しては「ステップアップ活動」への取組等を通じ、成果を収めている。

3. 富士メンタルクリニック

(1) 基本情報

- ① 管理者：石田 孜郎
- ② 所在地：富士市本町1番2-201号 電話（代表）0545-64-7655
- ③ 診療科：精神科、心療内科
- ④ 主な届け出受理等：精神科デイケア（小規模）、精神科ショートケア（小規模）
精神科訪問看護

(2) 医療活動

- ① 新患受け入れ体制の迅速化
新患枠の見直しは、昨年度同様に再診枠の空枠部分も臨機応変に受け入れ、可能な限り1ヶ月以内に診察となるようにした。待ち時間を少なくするように設定枠にも配慮した。新患診察の効率化を進める一助として、整えた問診票の再考をおこない、より効率化につなげることができた。
- ② 多職種間連携を強化し、更なる医療の質の向上を目指す。
より緊密な多職種間の連携を図るため、毎月のクリニック会議(木曜日16時)での報・連・相で

は、デイケア利用者の状態・状況報告を行うことにした。また、必要に応じて文書回覧での意見聴取や会議室のホワイトボードを利用した情報交換を速やかに行うことを心掛けた。

- ③ 訪問看護に関する内部研修の充実を図り、患者満足度の向上を目指す
訪問看護部門では内部研修で訪問看護者が求められているものを再認識した。事例検討した資料で得た知識を日々の訪問看護に活かすように心がけた。患者情報を各自分かりやすくまとめ、看護師間で共有を図り、他の患者でも迅速に対応することで患者の満足度向上に努めた。
- ④ デイケアにおいては、季節を感じる行事を実施
メンバーの意見を取り入れて季節を感じる行事を実施した。計7回の季節行事を実施し、直接季節を感じメンバー同士で気持ちを共有でき、また家族と共有することができた。
- ⑤ 心理検査の拡充（診断補助システムの円滑化と発達障害診断のプログラムC-PACKの実施）
発達障害の診断を希望する新患者が増え、心理部門での対応が急速に増加したが、デイケア観察や訪問看護等を組み込んだ診断治療を行うC-PACKのケースは無かった。

(3) 施設設備の整備計画
特になし

(4) その他の活動

- ① 接遇・院内外との連携の更なる充実とフィードバックの徹底
接遇に関しては、概ね昨年度と同程度の患者側評価であり、満足以上の回答率は7割を超え、職員の対応については、「大変不満」の割合は無くなった。ただ、電話対応では「不満」の回答率が増加していたため、次年度の課題となる。
- ② ISO9001（令和1年に終了）でのノウハウを活用し効果的な運用
ISOで培ったノウハウを参考に、当クリニックの業務マニュアルを作成した。また、昨年度と同様に、医療の質や患者満足度の向上に努めた。
- ④ 他医療機関との連携の更なる充実
紹介システムの再周知及び他医療機関からの患者紹介やデイケア受け入れに関して迅速に対応した。

入院・外来取扱患者数

	入院		外来		デイケア		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹岡病院	43,435	118.7	22,914	77.9	5,752	23.5	28,666	97.5
富士メンタルクリニック			11,892	40.4	2,274	9.3	14,166	48.2

訪問看護・作業療法取扱患者数

	訪問看護		作業療法	
	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹岡病院	978	3.3	10,329	35.5
富士メンタルクリニック	89	0.3		

[沼津リハビリテーション病院グループ]

1. 概要

令和5年度における事業経過の要点は以下の通りである。

- 1) 新型コロナウイルス感染症 COVID19 が5類に移行となったが、感染症対策の継続が必要であった。急性期病院の患者が新型コロナウイルス感染症・多剤耐性菌感染症の罹患により、当院への転院が遅延する影響があった。
- 2) 急性期病院へ当院の告知活動不足と入院患者の入院環境の整備が他院より劣り、当院への転入院患者数が低迷した。
- 3) 医療療養病棟においては、パーキンソン病等の神経難病患者が他院への一極集中化により、病床稼働率が低下した。
- 4) 1)2)3)により、病院における入院収入が低迷した。
- 5) 急性期病院への訪問による告知活動、来年度より広報誌創刊に向けた準備を行った。入院環境の整備は、入院アメニティセットの大幅な見直し、面会規制の緩和を行った。
- 6) 回復期リハビリテーション病棟においては医師1名の配置により、体制強化加算の請求を行うことができ、入院単価が増加した。
- 7) 嚥下造影検査機器(VF)を導入し、摂食嚥下機能を客観的な評価の実施が可能となり、経鼻栄養患者の受入が行え、病院機能向上として他院へのアピールとなった。
- 8) 連携室へ看護師1名配置により入退院体制を整え、急性期病院との連携強化と入退院支援加算・地域連携診療計画加算請求を行った。
- 9) 5)6)7)8)の効果により、今年度期末において病床稼働率が改善できた。
- 10) 訪問看護ステーションに関しては、患者数が低下により減収となった。今後、当院・地域医療機関・地域包括支援センター等との更なる連携強化が必要である。
- 11) 通所リハビリテーション事業に関しては、利用者数の伸び悩みが続き、今後の在り方を再検討する必要がある。
- 12) 日本医療機能評価機構による評価を受審、認定を受けることができた。また、新たな問題点が明らかとなり、更なる改善活動を推進し、病院体制の一層の充実や医療の質の向上に繋げるものとなった。

これらの帰結として、年度医業収入が低迷した点は大いに反省すべきと考える。しかし、その主要因である病床稼働率低迷の改善策を様々に実施し、期末には効果が表れている。

次年度は診療報酬改定が実施され、病床利用率の高値維持とともにリハビリテーション単位のアップ・業務の効率化などが必要と考える。

COVID19のみならず、インフルエンザ等のウイルス感染症、多剤耐性菌感染拡大などのリスクも含め、今後も感染症対策の重要性には大いに留意する必要がある。

2. 沼津リハビリテーション病院

(1) 基本情報

- ① 管理者：長友 秀樹 病床数：106床
- ② 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-1911
- ③ 診療科：リハビリテーション科、内科、神経内科、消化器内科
- ④ 主な届出受理等：回復期リハビリテーション病棟入院料
療養病棟入院基本料
脳血管疾患等リハビリテーション（I）
運動器リハビリテーション（I）
通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション

(2) 医療活動

① 回復期リハ病棟の機能維持・向上

脳卒中パス、骨折パスでの紹介ケースに対し、待機期間の短縮に努めた。回復期病床稼働率 87.6%。急性期への転院が 22 件/年、前年度より 5 件増加となった。FIM や ICF を基に作成した退院支援アセスメントシートを活用したカンファレンスを実施し、具体的な機能回復の目標をあげケア介入した。在宅復帰率 85.09% (前年比 3.23%増)。認知症ケアについての勉強会を実施し、対応力の向上を図った。退院日を早期に決定できるようパスシートを活用した。連携室と情報共有をし、情報提供を行っている。

② 医療療養病棟の機能改善

入院患者に対し、多職種カンファレンスの実施にて患者の全体像を共有し、ケア・処遇を検討、タイムリーな支援に繋げることができた。また、地域との連携も図り、計画的な入院（薬剤調整・リハビリ・レスパイト）に繋げることができた。在宅・急性期間問わず積極的に入院患者を受け入れ、退院支援シートに沿って退院支援を実施し、ケアの向上を図り在宅復帰率 93%となった。医療区分 2.3 の割合は 89.40%と維持できた。回復期リハ非対象患者の受け入れ、急性期病院からの医療度の高い患者、難病患者の受け入れに努めた。

(3) 施設設備の整備

摂食嚥下機能を客観的に評価するため、嚥下造影検査機器（VF）を導入。内視鏡機器・給食機器ブラストチラーの設備更新を行った。院内のネットワーク環境の調査を行ったが、電子カルテ導入の検討までは至らなかった。設備の改修・移転も検討までは至らなかった。

(4) 地域貢献活動

新型コロナワクチン接種に協力し、高齢者施設に出向いての接種を行った。一次救急輪番への協力、VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）感染対策連絡会議の参加、研究への協力、大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成にも協力した。また、静岡県が行う地域リハビリテーション強化推進事業において研修会を実施し、地域リハビリテーション支援センターとしての機能を果たした。

(5) その他の活動

人材確保については常に課題として取り組んでいるが十分な結果は得られていない。多職種による入院受け入れ業務の再構築により業務の効率化を目指し、看護師から多職種へのタスクシフトシェアに取り組んでいる。今後、医師から看護師へのタスクシフトシェアに取り組む。今年度は特定行為研修を来年度に受講する準備を行った。QC サークルの活動は、各部署間での取組みの差があり、全体では積極的な取組みには至っていない。

3. 訪問看護ステーションうしづせ

(1) 基本情報

- ① 管理者：松川 香織
- ② 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-3900
- ③ 主な届出受理等：24 時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア療養費

(2) 医療活動

24 時間の緊急対応を維持し、医療機関や在宅医、その他サービス事業所との連携により、在宅医療の推進に努めた。介護保険利用者の減少に伴い、介護保険収入が主に減少し減収となった。

(3) 地域貢献活動

看護学校実習を受入れ、訪問看護の周知に努めた。

入退院及び在院患者数

(定床：106床)

入院	期首在院	期中入院	期中退院	期末在院	期中延	1日当(人/日)
医療	89	264	261	92	32,148	87.8

外来取扱患者数

外 来		通所リハビリ		訪問リハビリ	
期中延	1日当(人/日)	期中延	1日当(人/日)	期中延	1日当(人/日)
7,393	30.7	4,479	14.8	120	1.1

訪問看護ステーションうしづせ取扱患者数

	訪問看護	
	期中延	1日当(人/日)
医療	1,425	4.6
介護	3,306	10.6
計	4,731	15.2

VI. 福祉活動

[本部・社会復帰事業部]

1. 概要

令和5年度本部においては(1)「組織力の強化」(2)「システム化の推進」(3)「適正な人事・労務管理」(4)「収益力の強化」の4項目を重点目標に掲げ、厳しい経営環境の中で経営の健全性を維持し、収益性を向上に取り組んできた。

法人全体の最重要課題だった「事業計画を着実に実践し、目標を達成する」については、令和3年度・令和4年度と2期黒字計上したが、残念ながら当期は赤字計上となり予算を下回る結果になってしまった。

また、システム化の推進においては、勤怠管理システムを全面更改する予定だったが、導入予定のシステムで仮稼働時に処理速度遅延が発生し、結果として導入を断念する事態となった。システム選定時、処理速度は問題ないという導入業者の説明があったものの、結果として、実用に供さず、導入費用の重複や職員への負荷増加を強いる事態になったことは、本部としてシステム選定時のプロセスに問題があったと大いに反省している。

現在、処理速度に問題のない新システムを導入準備中で、令和6年8月には本稼働の予定である。

社会復帰事業部での令和5年度の最も大きな変化は、新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが5類に移行した事により、私たちが大切にしている対面での支援や参集での活動が緩和された事である。何より障がいを持つ方々、職員の表情が明るくなった。

令和4年に日本に出された障がい者権利条約の総括所見は、改めて障がいを持つ方の医療・福祉の実践の中で「人権」を意識する機会となり、事業部としてはピアスタッフの協力も得ながら各事業所が虐待防止や差別解消等の勉強会を実施した。権利や人権については今後も継続して学びや支援の相談が出来る環境を整備していく。

ピアスタッフについては、年度当初新たに2名が就労というピアスタッフとしては難しい関わりの現場に入職され活躍している。ピアスタッフが配置されている職場では働きやすい(=相談しやすい)環境を作り、また医療を含めた他部署についても協力体制を維持できた。ピアスタッフの体制を意識する事によって他部署との関係性がより円滑になったという効果も出ている。

災害対策については、幸いにも今年度当地域で大きな災害はなかったが、能登半島地震や線状降水帯による水害等各地の被災状況を聞き、防災計画や実態に沿った具体的なBCPの見直しを進めている。

最後に人材確保については厳しい状況が続いている。1つには障がい者支援に対する私たちの想いに共感する方たちへ伝わっていない事が考えられる。私たちの想いや実践をもっと外部に伝える手段を考える必要がある。

2. 本部事務局

(1) ガバナンス強化と予算実績進捗管理の深化

前月の各病院等の業績速報を報告・情報共有するとともに、課題や改善策を検討する場として、毎月の経営会議の機能強化が図れた。

(2) システム化の推進

「勤怠管理システム」は前述のとおり導入失敗し、次年度に延期になったが、「人事・給与システム」は順調に新システムに移行した。

また、インボイス制度や電子帳簿保存法対応については、スケジュールとおりに適切に対応した。

(3) 適正な人員配置の見直し

事務局として、本部と支部との良好な人間関係を図りつつ、本部と病院間での事務職員の人事交流を積極的進めた。次年度についても引き続き人事交流を推進していきたい。

(4) 経費削減

物品購入の廉価な物への代替えや見積合わせの徹底により、コスト意識が醸成されたことで物件費の圧縮が図れた。今後は、物品の共同購入や共同化を押し進めていきたい。

3. 社会復帰事業部

1) 相談支援事業

引き続き各市町から委託相談、指定特定・一般相談支援事業をサポートセンターなかせ・ゆめワーク・ほっと・りりぶ・ひまりの5事業所で実施。またサポートセンターなかせでは自立生活援助事業を実施した。年々計画相談の件数は増加してきており、令和5年度も利用者の居宅や障害福祉サービス事業所へ積極的に訪問に行くことで、利用者が安心して生活を送る事が出来る支援を工夫してきた。また各市町で整備されている障害者基幹相談支援センターと協働し、困難ケースへの対応、地域生活支援拠点等事業へも取り組んでいる。今後も精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築や令和6年度から始まる入院者訪問支援事業など、ピアスタッフとも協働しながら取り組んでいく機会が多くなっていく。そのため事業所・法人内に留まらず各圏域・市町の中で、専門職としての視点を意識しながら中心的な役割を担っていく必要性を感じる。令和6年度は報酬改定もありこれまで算定対象とはなっていなかった支援も請求可能となっている。それらを意識しながら、誰もが安心して生活できる地域作りを目指して、相談支援専門員として専門職としてできることを積極的に取り組んでいきたい。

2) 地域活動支援センター事業

サポートセンターゆめワーク、サポートセンターりりぶの2箇所を実施。

今年度は新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが5類に移行したこともあり、活動プログラムも様子を見ながら実施したが、日頃の感染対策もあり感染がまん延することはなかった。感染対策を行いながらも両センターともに利用者が安心できる場所を提供できるよう心掛け、創作活動、軽スポーツなどの趣味的活動や、料理教室、清掃活動などの生活支援を組み合わせるなど工夫しながら取り組むことができた。また、社会復帰事業部内の就労支援事業所、地域活動支援センター等の合同企画として、第3回文化祭「秋ふく祭」を今年度も開催。今回は同法人のデイケア課、作業療法課にも声をかけ作品を出展してもらった。イベントのために早めに作品を手掛ける利用者や参加を楽しみにされる利用者等イベントの拡大、定着に繋がっているように感じる。来年度も当事者主体による取り組みを行い、ピアスタッフとの協働、地域行事への参加、ボランティア育成等、地域に開かれたセンター運営に努めていきたい。

3) 共同生活援助事業

グループホームコーポ狩野・はまゆう寮・カーサ岡の宮・ふじみの4か所を実施。

新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが5類に移行したことで、ここ数年思うように進められていなかった新規入居者の受け入れもスムーズに進めることが出来た。また、利用者・職員に対しては継続して感染予防対策への協力を得ながらも、外出・外食制限の緩和や合同防災訓練の実施、レクリエーションの実施など徐々に生活・活動の幅を広げることが出来た。

また、1人暮らしを希望する利用者に対し、アパート探しから単身生活に向けた準備、アパートでの生活の定着支援を、グループホームとしての関係性を活かして希望する生活の実現を支援する事が出来た。

今後も生活の場として安心できる生活環境づくり、地域や利用者のニーズに合わせた支援を行えるようにスタッフの資質向上・支援の担保にも努めていきたい。

4) 就労支援事業

東部圏域（沼津・三島・伊豆の国）3カ所で就労継続支援B型事業を実施。ここ数年、各地域に様々な就労系の事業所が開設される中、利用者から選ばれるよう地域や利用者のニーズを把握し、家族・関係機関とも連携した丁寧な個別支援が求められている。その為、利用日数に応じた奨励手当金

の支給をはじめ、安価で健康面に配慮した昼食の提供、個々の特性を活かせるような作業提供など他事業所とのサービスの格差是正と共に利用者の意欲向上へと繋げた。

新型コロナウイルス感染防止の観点からここ数年間、授産製品の販売機会の自粛やイベント中止等の対応を余儀なくされたが、今年度は少しずつ感染防止対策を徹底しながらイベント等を再開し、利用者及び地域住民の方々からも喜ばれた。

今後も、一般就労への支援や利用者・家族の高齢化等様々な課題について前向きに取り組み、利用者選ばれ、安心して通所出来る環境づくりに努めていく。

地域貢献活動

- 1) 静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして駿東田方圏域自立支援協議会運営に貢献した。
- 2) 沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、伊東熱海地区、富士市、長泉町地域自立支援協議会の運営に協力した。
- 3) 沼津市、伊豆の国市から委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。
- 4) 沼津市、伊東市、熱海市、伊豆市、伊豆の国市、清水町、裾野市の障害支援区分判定審査会委員として地域に貢献した。

相談・訪問件数（延件数）

（令和5年4月～令和6年3月）

	来所	電話	訪問	その他	合計
ゆめワーク	431	1,457	648	1,677	4,213
なかせ	125	1,754	945	3,277	6,101
ひまり	199	998	1,286	3,090	5,573
りりぶ	464	5,480	772	2,361	9,077
ほっと	57	918	482	1,429	2,886
合計	1,276	10,607	4,133	11,834	27,850

地域活動支援利用状況（延人数）

（令和5年4月～令和6年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ゆめ	85	71	94	96	111	121	131	106	87	71	68	77	1,118
りりぶ	148	129	122	122	102	129	126	114	161	133	109	139	1,534
合計	233	200	216	218	213	250	257	220	248	204	177	216	2,652

グループホーム利用状況

（令和6年3月31日現在）

施設名	定員	出身市町													合計
		富士	沼津	伊東	富士宮	裾野	三島	御殿場	熱海	伊豆	伊豆の国	長泉	清水	その他	
ふじみ	10	6			1			1							8
カーサ園の宮	10		4	2										2	8
はまゆう	9		2	1	1	1	1		1			1			8
コーポ 狩野	18	1	5	1	1		2			1	3	1	2		17

就労支援事業所かのん利用状況

(令和5年4月～令和6年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	48	47	47	48	48	46	44	44	44	45	44	44	
開所日数	23	23	25	24	22	23	24	23	24	22	22	24	279
実人数	43	41	42	45	44	43	41	40	40	40	39	38	
延人数	486	475	504	476	456	455	498	465	488	461	419	437	5,620
1日平均	21.1	20.7	20.2	19.8	20.7	19.8	20.8	20.2	20.3	21.0	19.0	18.2	20.1

ワークショップまごころ利用状況

(令和5年4月～令和6年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	37	37	37	37	37	37	36	35	34	34	34	34	
開所日数	24	24	26	25	23	25	25	26	25	23	23	25	294
実人数	30	33	32	30	32	32	32	29	29	30	30	30	
延人数	390	438	461	395	393	427	426	377	407	362	357	377	4,810
1日平均	16.3	18.3	17.7	15.8	17.1	17.1	17.0	14.6	16.3	15.7	15.6	15.1	

就労支援事業所田方・ゆめワーク利用状況

(令和5年4月～令和6年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	19	19	20	20	20	20	21	21	23	23	23	23	
開所日数	20	20	22	20	20	20	23	22	21	20	20	20	248
実人数	18	18	19	19	20	20	21	21	23	22	21	21	
延人数	246	239	265	254	266	267	264	292	338	309	305	296	3,341
1日平均	12.3	12.0	12.0	12.7	13.3	13.4	11.5	13.3	16.1	15.5	15.3	14.8	13.5

以上

Ⅶ. 地域貢献活動

〔1〕 講演開催状況

沼津中央病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R5/4/13	住友ファーマ株式会社三島集会所	「児童思春期の自殺予防とその対応の難しさ」	宇賀神 北斗	住友ファーマ株式会社
4/21	住友ファーマ株式会社三島集会所	「ロナセンターの使用価値」総合討論パネリスト令和4年度DPA T研修	大原 佑生	住友ファーマ株式会社
5/12	住友ファーマ株式会社三島集会所	「ラツダ錠の使用価値」総合討論パネリスト	大原 佑生	住友ファーマ株式会社
5/17	静岡パルシェ会議室	「本音はすがりつきたい！精神科救急と病診連携の現状～レジストリデータと合わせて～」	長谷川 花	ヴィアトリス製薬 住友ファーマ株式会社
6/2	コンベンション沼津	「精神科救急におけるうつ・自殺対策～精神科救急医療ガイドライン2022年度版より～」	杉山 直也	ヴィアトリス製薬 住友ファーマ株式会社
6/7	中島屋グランドホテル	Real World Evidence の臨床活用	杉山 直也	大塚製薬株式会社
7/12	横浜市港北公会堂	『死にたい気持ち』に対して私たちができること	日野 耕介	横浜市こころの健康相談センター
8/4	静岡県東部総合庁舎	精神疾患の基礎知識	澤野 文彦	東部保健所
8/5	宇都宮ライトキューブ	精神科救急・急性期におけるケアを考える～RWEの活用と身体拘束ゼロ化～	杉山 直也	ヤンセンファーマ株式会社
8/8, 9	静岡県男女共同参画センターあざれあ	令和4年度静岡県精神障害者ピアサポート研修 基礎研修講師	久野 満津代 竹内 晃	静岡県
8/19	静岡県男女共同参画センターあざれあ	日精看静岡県支部研修会講師 「当事者と医療者の思いのズレ」	久野 満津代 竹内 晃	日本精神科看護協会静岡県支部
8/25	看護協会静岡県支部	対象者の人権を考える	牛島 一成	静岡県看護協会
8/31	住友ファーマ株式会社三島集会所	種々の治療工夫を要した、若年初発統合失調症例	山下 大翔	住友ファーマ株式会社
9/5	住友ファーマ株式会社三島集会所	「外来統合失調症の治療戦略」	長谷川 花	住友ファーマ株式会社
9/11	住友ファーマ株式会社静岡営業所	「身体拘束ゼロプロジェクトについて」	長谷川 花	住友ファーマ株式会社
9/22	プラサヴェルデ	「精神科救急・急性期におけるケアを考える～RWEの活用と身体拘束ゼロ化～」	杉山 直也	かながわ地域精神科医会 ヤンセンファーマ株式会社
10/4	ホテルマイルズ鹿児島天文館	「精神科救急・急性期におけるケアを考える～RWEの活用と精神科救急医療ガイドライン～」	杉山 直也	ヤンセンファーマ株式会社
10/5	静岡県東部総合庁舎	こころの病気の理解と治療	宇賀神 北斗	静岡県東部保健所
10/5	静岡県東部総合庁舎	家族のための精神保健福祉講座	寺田 朝子	静岡県東部保健所
10/26, 27	もくせい会館	令和5年度静岡県精神障害者ピアサポート研修 専門研修講師	竹内 晃 久野 満津代	静岡県
10/28	静岡市静岡医師会	国と自治体～診療場面で取り組む自殺対策	杉山 直也	静岡県中部医学会
11/13	静岡県熱海総合庁舎	国と自治体～診療場面で取り組む自殺対策	杉山 直也	静岡県熱海保健所

11/21	Web 配信 院内配信	統合失調症の薬物療法：何を根拠に考えるか	杉山直也	大塚製薬株式会社
12/8	医療法人杏和会 阪南病院	精神科リスクマネジメント～自殺関連問題への対応を中心に～	杉山直也	大塚製薬株式会社
12/10	Web 配信	令和5年度自殺未遂者ケア研修会「第2回一般救急版」	日野耕介	
12/12	ウェルピアながいずみ	令和5年度 駿東田方圏域「ピアMEETS ピア」長泉会場 講師	竹内晃 久野満津代	駿東田方圏域地域移行部会
12/21	沼津リバーサイドホテル	精神科救急医療に関する最近の話題～法改正と急性期の入院予測因子について～	杉山直也	住友ファーマ株式会社
12/22	函南町役場	令和5年度駿東田方圏域「ピアMEETS ピア」函南会場 講師	竹内晃 久野満津代	駿東田方圏域地域移行部会
R6/1/11	裾野市役所	令和5年度駿東田方圏域「ピアMEETS ピア」裾野会場 講師	竹内晃 久野満津代	駿東田方圏域地域移行部会
1/13	富士宮市立富士根北中学校	ドリーム・ジョブ・カフェ	久野満津代	富士根北中学校
1/17, 21	Web 配信	令和5年度東京都自殺未遂者支援研修	日野耕介	東京都
1/30, 31	静岡県男女共同参画センターあざれあ	令和5年度静岡県精神障害者ピアサポート研修フォローアップ研修	竹内晃 久野満津代	静岡県
2/7	静岡駅パルシェ	「統合失調症治療におけるエビリファイ LAI の導入意義について」パネリスト	長谷川花	大塚製薬株式会社
2/9	熱海総合庁舎	「自殺未遂者対応における地域連携」令和5年度熱海伊東圏域自殺対策ネットワーク会議	日野耕介	熱海市

鷹岡病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R5/6/1	富士市青葉台まちづくりセンター	脳の健康教室～あたまの体操をして元気になろう！	久保伸年	富士市北部地域包括支援センター
9/6	富士市教育プラザ	カウンセリング講座(全7回・3回担当)	久保伸年	富士市青少年相談センター
11/11	富士市フィランセ	うつ病家族講座～望ましいサポートの仕方	久保伸年	富士市健康政策課
11/13	富士市消防防災庁舎	支援で安心を届けるには～こんなとき どうしますか	久保伸年	富士市障害者自立支援協議会
11/22	富士市立富士南小学校	職業講話～心理カウンセラーの仕事	久保伸年	(一社) まちの遊民社
R6/3/10	静岡市番町市民活動センター	家族にとつての精神科	久保伸年	KHJ 静岡県「いっぷく会」
3/26	富士市消防防災庁舎	精神疾患患者への対応研修	曾根満寿代	富士市地域包括支援センター 社会福祉士連絡会

沼津リハビリテーション病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R5/4/9	西伊豆町	失語症者への集団訓練	渡 邊 美 礼	静岡県言語聴覚士会
6/16	アゴラ沼津	当院におけるパーキンソン病のリハビリテーションの紹介	西 島 勇	協和キリン株式会社
7/16	コミュニティながいずみ	シルバーリハビリ体操について ～運動実演～	西 島 勇	静岡県理学療法士会
10/4	くるら戸田	運動の必要性と自宅のできる運動 高齢期の社会参加	西 島 勇	沼津市長寿福祉課
11/29	我入道会館	フレイル予防に必要な運動・口腔・社会参加について	白 井 伸 洋 中 村 夏 美 山 田 絢 佳	かぬき居宅介護支援事業所
12/27	Web 配信 ピット 28	沼津市の地域ケア個別会議～自立支援に資するケアマネジメント支援～	リハビリテー シ ョ ン 課	駿東田方圏域リハビリテーション強化推進事業（静岡県東部保健所）

訪問看護ステーションうしづせ

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R5/4/14	プラサヴェルデ	第3回 がん薬物療法安全対策セミナー	松 川 香 織	中外製薬株式会社
8/26	三島市民活動センター	ケアマネジャー在宅医療研修 「訪問看護についての理解」	松 川 香 織	静岡県訪問看護ステーション協議会
11/17	グランシップ	終末期看護・介護における利用者との関わりについて	松 川 香 織	静岡県福祉用具協会
12/9	プラサヴェルデ	県民フォーラム「安心して最期まで自宅で過ごすこと」	松 川 香 織	静岡県訪問看護ステーション協議会
R6/1/20	ホテルアソシア静岡	第63回 静岡県病院学会	松 川 香 織	静岡県病院協会

社会復帰事業部

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
5/8,8,9	静岡県男女共同企画センター	静岡県精神障害者ピアサポート研修基礎研修	石 川 淳 山 崎 将 展	静岡県
8/23	静岡県総合庁舎	精神保健福祉業務基礎研修会	鈴 木 伸 二	静岡県精神保健福祉センター
	〃	〃	石 川 淳	
	〃	〃	山 崎 将 展	
10/26, 27	静岡県総合社会福祉会館	静岡県精神障害者ピアサポート研修専門研修	石 川 淳 山 崎 将 展	静岡県
11/20	伊豆の国市大仁庁舎	伊豆の国市精神保健福祉懇話会	小 山 千 菜 美	伊豆の国市地域自立支援協議会
	〃	〃	杉 山 美 幸	駿東田方圏域自立支援協議会
12/12	ウェルピアながいずみ	ピア meets ピア	石 川 淳	
	〃	〃	山 崎 将 展	駿東田方圏域自立支援協議会
12/22	函南町役場	ピア meets ピア	石 川 淳	
	〃	〃	山 崎 将 展	駿東田方圏域自立支援協議会
1/11	裾野市役所	ピア meets ピア	石 川 淳	
	〃	〃	山 崎 将 展	
R6/1/19, 26	静岡県総合社会福祉会館	主任相談支援専門員研修	鈴 木 伸 二	静岡県
1/30, 31	静岡県男女共同企画センター	静岡県精神障害者ピアサポート	石 川 淳	静岡県
1/30, 31	静岡県男女共同企画センター	研修 フォローアップ研修	山 崎 将 展	静岡県

3/12	静岡県下田総合庁舎 ” ” ”	” 支援者が知っておきたいピアサポ ート基礎知識 ” ”	牛島聖美 鈴木伸二 石川淳 山崎将展	” 賀茂健康福祉センター ” ”
3/15	静岡県東部総合庁舎	駿東田方圏地域移行部会研修	鈴木伸二	東部健康福祉センター

〔2〕 嘱託医の受託

病 院	施 設 名	担 当 医
沼津中央病院	(福)悠雲寮 静香会 (福)野菊寮 (福)遊法苑 宏寿会 ” (福)高尾園 春風会 名古屋国税局 精神科専門医 社会福祉法人ミルトス会 駿東学園	梶本光要 梶本光要 大原佑生 伊藤慶 道部晃 坂晶 浅倉博幸
大手町クリニック	沼津工業高等専門学校 職員精神保健相談(静岡県) 静岡県警察本部	志澤容一郎 志澤容一郎 志澤容一郎
鷹岡病院	(株)東芝キャリア 三生医薬(株)	高木啓 高木啓
沼津リハビリテーション病院	(福)信愛会 ぬまづホーム (福)信愛会 和みの郷	杉山元信 杉山元信

〔3〕 実習病院の受託

病 院	委 託 施 設 ・ 機 関 等
沼津中央病院	御殿場看護学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県立看護専門学校 沼津市立看護専門学校 順天堂大学保健看護学部 静岡県立大学看護学部 小田原国際医療福祉大学 中部学院大学 静岡福祉大学
鷹岡病院	富士市立看護専門学校 第1看護学科 静岡県立看護専門学校 第2看護学科 静岡福祉大学 社会福祉学部 福祉心理学科 日本社会事業大学 通信教育科 聖徳大学 通信教育部 心理・福祉学部 社会福祉学科 国際医療福祉大学 小田原保健医学部 作業療法学科 静岡英和学院大学 人間社会学部人間社会学科
沼津リハビリテーション病院	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科・言語聴覚学科 常葉大学 健康科学部 静岡理学療法学科 国際医療福祉大学 小田原保健医学部 理学療法学科 静岡東都医療専門学校 理学療法学科

	専門学校 富士リハビリテーション大学校 理学療法学科・作業療法学科 専門学校 中央医療健康大学校 理学療法学科 静岡医療科学専門学校 理学療法学科 東京医薬看護専門学校 言語聴覚士科 静岡県立沼津視覚特別支援学校 高等部 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 順天堂大学 保健看護学部 静岡県看護協会（静岡県立沼津東高等学校・沼津西高等学校・沼津城北高等学校・沼津市立沼津高等学校・学校法人沼津学園 桐陽高等学校）
訪問看護ステーションうしぶせ	静岡県立看護専門学校 沼津市立看護専門学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 居宅介護支援事業所 まある
社会復帰事業部	順天堂大学 保健看護学部 静岡福祉大学 社会福祉学部 聖徳大学 通信教育部 心理・福祉学部 東京福祉保育専門学校 精神保健福祉士養成通信課程 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 御殿場看護学校 沼津市立看護専門学校 静岡県立看護専門学校 静岡県立沼津特別支援学校

〔4〕 大学・看護学校への講師派遣

病 院	施 設 名	講 師
沼 津 中 央 病 院	公立大学法人 横浜市立大学 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県立看護専門学校 沼津市立看護専門学校 御殿場看護学校 静岡県立看護大学 静岡県立看護専門学校 御殿場看護学校 沼津市立看護専門学校	日野耕介 森本宇 中田太朗 葛城芳弘 山田信昭 麻場英聖、市川容代 小嶋有美 麻場英聖、今井亮太 飯塚香織 飯塚香織、牛島一成 小林久美子 麻場英聖 小嶋有美 飯塚香織 飯塚香織
大 手 町 ク リ ニ ッ ク	静岡医療センター附属静岡看護学校	葛城 芳弘
鷹 岡 病 院	富士市立看護専門学校 JA 静岡厚生連するが看護専門学校 静岡英和学院大学 健康科学大学	曾根満寿代、渡辺睦子、 久保伸年、山口雅弘 曾根満寿代 久保伸年 山口雅弘、小山隆太

	日本福祉大学	山口雅弘
富士メンタルクリニック	富士市立看護専門学校	鈴木順一
沼津リハビリテーション病院	専門学校 中央医療健康大学校 理学療法学科 静岡東都医療専門学校 理学療法学科 富士リハビリテーション大学校 理学療法学科	西島勇 西島勇 白井伸洋
訪問看護ステーションふじみ	御殿場看護学校 沼津市立看護専門学校	飯塚香織 飯塚香織
社会復帰事業部	沼津市立看護専門学校	青木大輔、小山千菜美 山下圭美、石川淳

〔5〕 関連諸団体の活動 (管理者のみ)

病 院	活 動 内 容	役 職 名	担 当 者
沼 津 中 央 病 院	日本精神科救急学会	理 事 長	杉 山 直 也
	〃	理 事	杉 山 直 也
	〃	評 議 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 教育研修委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 医療政策委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 認定医制度委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本自殺予防学会	理 事	杉 山 直 也
	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部	客 員 研 究 員	杉 山 直 也
	日本医療機能評価機構 検討会	委 員	杉 山 直 也
	横浜市立大学	客 員 教 授	杉 山 直 也
	日本精神科病院協会	代 議 員	杉 山 直 也
	日本精神科病院協会 政策委員会	委 員	杉 山 直 也
	静岡県精神科病院協会	副 会 長	杉 山 直 也
	〃	理 事	杉 山 直 也
	静岡県精神保健福祉協会	評 議 員	杉 山 直 也
	沼津市立病院・静岡医療センター合同地域医療支援病 院運営委員会	委 員	杉 山 直 也
	沼津市立病院地域医療連携推進委員会	委 員	杉 山 直 也
	静岡医療センター地域医療支援病院運営委員会	委 員	杉 山 直 也
	静岡県東部精神科医会	代 表 世 話 人	杉 山 直 也
	静岡県精神科救急医療研究会	世 話 人	杉 山 直 也
地方公務員災害補償基金静岡支部	相 談 医	杉 山 直 也	
鷹 岡 病 院	静岡県精神保健福祉協会	常 務 理 事	高 木 啓
	認知症の人と家族の会静岡支部	顧 問	高 木 啓
	富士市医師会	監 事	高 木 啓
	ユニバーサル就労を拓げる会	顧 問	高 木 啓
	静岡県障害者スポーツ協会	評 議 員	石 田 多 嘉 子

[6] 公的機関の医療・福祉活動への協力

沼津中央病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
DPAT 運営協議会	委 員	厚生労働省委託業務 DPAT 事務局	杉 山 直 也
静岡県公安委員会	認 定 医	静岡県公安委員会	杉 山 直 也
静岡県精神保健福祉審議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉 山 直 也
静岡県精神医療審査会	委員・会長代理	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉 山 直 也
静岡県自殺対策連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉 山 直 也
静岡県精神科救急医療システム連絡調整委員会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉 山 直 也
静岡県措置入院適正運営協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉 山 直 也
静岡 DPAT 連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉 山 直 也
措置入院適正運営協議会 東部保健所部会	委 員	静岡県東部保健所	杉 山 直 也
措置入院適正運営協議会 熱海保健所部会	委 員	静岡県熱海保健所	杉 山 直 也
駿東田方圏域保険医療協議会	委 員	駿東田方圏域保険医療協議会	杉 山 直 也
駿東田方構想区域地域医療構想調整会議	委 員	東部健康福祉センター	杉 山 直 也
ふじのくに地域医療支援センター東部支部	運 営 委 員	ふじのくに地域医療支援センター東部支部	杉 山 直 也
駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会	委 員	駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会委員	杉 山 直 也
沼津・御殿場地域産業保健センター運営協議会	構 成 員	独立行政法人労働者健康安全機構静岡産業保健総合支援センター	杉 山 直 也
沼津市自殺対策連絡会	アドバイザー	沼津市健康づくり課成人保健係	杉 山 直 也
いのち支える沼津市自殺対策計画策定懇話会	会 長 ・ 委 員	沼津市健康づくり課成人保健係	杉 山 直 也
清水町自殺対策推進連絡協議会	会 長	清水町福祉介護課	杉 山 直 也
	委 員		杉 山 直 也
精神科医会	会 長	沼津医師会	杉 山 直 也
認知症対策委員会	委 員	沼津医師会	杉 山 直 也
静岡県公安委員会	認 定 医	静岡県公安委員会	長 谷 川 花
沼津市就学支援委員会	委 員	沼津市教育委員会	長 谷 川 花
沼津警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委 員	沼津警察署	長 谷 川 花
静岡県摂食障害対策推進協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	長 谷 川 花
自殺未遂者支援事例検討会	ス ー パ ー バ イ ザ ー	東京都杉並区	日 野 耕 介
駿東・田方圏域認知症疾患医療連携協議会	委 員	駿東・田方圏域認知症疾患医療連携協議会	日 野 耕 介
静岡 DPAT 連絡協議会	委 員	静岡県	日 野 耕 介
小山町老人ホーム入所判定部会	委 員	駿東郡小山町事務所	坂 晶
長泉町老人ホーム入所判定部会	委 員	長泉町事務所	坂 晶
函南町老人ホーム入所判定部会	委 員	函南町事務所	坂 晶
伊豆の国市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆の国市福祉事務所	坂 晶
裾野市老人ホーム入所判定部会	委 員	裾野市福祉事務所	坂 晶
清水町老人ホーム入所判定部会	委 員	清水町事務所	坂 晶
伊豆市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆市事務所	坂 晶
東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	囑 託 医	東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	坂 晶
ふじのくに感染症専門医協働チーム	コアメンバー	静岡県感染対策担当部新型コロナ対策企画課	坂 晶
こころの健康相談員	課 長	清水町役場	市 川 容 代
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県	竹 内 晃
静岡県精神医療審査会	委 員	静岡県	久 野 満 津 代
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	構 成 員	静岡県東部健康福祉センター	久 野 満 津 代

沼津市自立支援協議会地域移行専門部会	構 成 員	沼津市障害福祉課	寺 田 朝 子
熱海伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県熱海健康福祉センター	北 舘 美 沙 依
清水町障害者自立支援協議会	委 員	清水町	北 舘 美 沙 依
伊豆市のち支える自殺対策協議会	委 員	伊豆市健康長寿課	寺 田 朝 子
精神保健福祉法改正の施行に向けたヒアリング ピア交流会	委 員	東部保健所 静岡県	寺 田 朝 子 竹 内 晃
DPAT 先遣隊 災害派遣	隊 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	常 盤 克 美
精神包括ケアシステム部会		伊豆の国市地域自立支援協議会	山 岡 里 可
東部地区支部役員	訪 問 看 護 係 長	静岡県看護協会	小 野 三 佳

鷹岡病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
静岡県精神科救急システム連絡調整委員会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県摂食障害対策推進協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県DPAT連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県医療観察制度運営連絡協議会	協 議 員	静岡保護観察所	高 木 啓
静岡地方労災医員	医 員	静岡労働局	高 木 啓
一般医から精神科医への紹介システム運営委員会	委 員	富士市医師会	高 木 啓
富士市老人ホーム入所判定委員会	委 員	富士市福祉部高齢者支援課	高 木 啓
富士市認知症施策推進検討委員会	委 員 長	富士市保健部介護保険課	高 木 啓
〃	委 員	〃	水 野 拓 二
富士市障害者自立支援協議会代表者会議	委 員	富士市福祉部障害福祉課	高 木 啓
富士市差別解消支援協議会	委 員	富士市福祉部障害福祉課	高 木 啓
富士市自殺対策推進会議	会 長	富士市保健部健康政策課	高 木 啓
〃	委 員	〃	久 保 伸 年
富士宮市認知症医療研究会	委 員	富士宮市福祉総合相談課	高 木 啓
静岡市精神医療審査会	委 員	静岡市こころの健康センター	高 木 啓
富士圏域自立支援協議会	構 成 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議	委 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域地域医療構想調整会議	委 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域自殺未遂者支援ネットワーク会議	委 員	富士保健所	高 木 啓
富士圏域措置入院適正運営協議会	委 員	富士保健所	高 木 啓
富士市いじめ問題対策推進委員会	委 員	富士市教育委員会	高 木 啓
富士市立中央病院臨床研修管理委員会	委 員	富士市立中央病院	高 木 啓
富士宮市立病院臨床研修管理委員会	委 員	富士宮市立病院	高 木 啓
ふじのくに地域医療支援センター東部支部運営会議	委 員	東部保健所	高 木 啓
医療観察法研究協議会	委 員	静岡地方裁判所	高 木 啓
静岡県精神保健福祉審議会	会 長	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	石 田 多 嘉 子
第三次富士市DV対策基本計画策定懇話会	委 員	富士市福祉部生活支援課	石 田 多 嘉 子
富士市生活保護法審査会	委 員	富士市福祉部福祉総務課	石 田 多 嘉 子
静岡県精神医療審査会	委 員	静岡県精神保健福祉センター	川 島 茉 己
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	曾 根 満 寿 代
富士圏域自立支援協議会地域移行定着部会	部 会 長	富士健康福祉センター	山 口 雅 弘
〃	構 成 員	〃	曾 根 満 寿 代
〃	〃	〃	川 口 恭 子
富士警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委 員	富士警察署	久 保 伸 年
富士市障害支援区分認定審査会	委 員	富士市福祉部福祉総務課	白 川 怜 小
富士宮市権利擁護ネットワーク会議	委 員	富士宮市介護障害支援課	山 口 雅 弘

沼津リハビリテーション病院

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
沼津市ほか3市町介護認定審査会	認定審査委員	沼津市介護保険課	長倉雅希
沼津市フレイル予防事業	フレイルトレーナー	沼津市長寿福祉課	西島 勇

大手町クリニック

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
能登半島地震 DPAT活動	DPAT先遣隊 看護 師	静岡DPAT	葛城芳弘

あたま中央クリニック

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
自立支援協議会 熱海保健所		自立支援協議会 熱海保健所	葛城芳弘

訪問看護ステーションうしぶせ

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
沼津市ほか3市町介護認定審査会	認定審査委員	沼津市介護保険課	松川香織
ACP実践力向上ワーキンググループ	委 員	静岡県医師会シズケアサポートセンター	松川香織

訪問看護ステーションふじみ

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
総会出席	代 議 員	日本精神科救急学会	飯塚香織
令和4年度精神障害者家族のためのこころの懇談会講師、グループワーク	〃	熱海保健所	飯塚香織
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会出席	〃	伊豆の国市障害福祉課	山岡里可
	〃	〃	

社会復帰事業部

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部 会 長	東部健康福祉センター	鈴木伸二
熱海・伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	部 会 長	熱海健康福祉センター	秋津崇史
熱海市障害支援区分等判定審査会	審 査 委 員	熱海市	鈴木伸二
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部 会 長	熱海市・伊東市	秋津崇史
伊東市障害支援区分等判定審査会	審 査 委 員	伊東市	鈴木伸二
伊豆市地域自立支援協議会	副 会 長	伊豆市	青木大輔
伊豆市障害福祉計画策定委員会	委 員	伊豆市	青木大輔
伊豆市なんでもかんでも相談会	相 談 員	伊豆市	青木大輔
〃	〃	〃	池田友美
〃	〃	〃	武井紗知
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審 査 委 員	伊豆市・伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会	協議・運営委員	伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会	部 会 長	伊豆の国市	小山千菜美
伊豆の国市障害支援区分認定調査	調 査 員	伊豆の国市	小山千菜美
〃	〃	〃	武井紗知
〃	〃	〃	杉山美幸
伊豆の国市障害福祉計画策定委員会	委 員	伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市 Aging in place 分科会	委 員	伊豆の国市	青木大輔
沼津市障害者自立支援協議会 相談部会	部 会 長	沼津市	鈴木伸二

沼津市障害者支援区分認定調査	調 査 員	沼津市	内 藤 治 子
裾野市障害支援区分判定審査会	審 査 委 員	裾野市	杉 山 智 子
富士市障害者自立支援協議会就労部会	部 会 長	富士市	田 尻 ゆ き
富士市障害者自立支援協議会	会 長	富士市	長 谷 川 真 美
富士市障害者自立支援協議会	事 務 局 長	富士市	田 尻 ゆ き
清水町障害支援区分認定審査会	審 査 委 員	清水町	勝 又 美 智 子

〔7〕 受託事業

所 属	受 託 事 業 名
鷹 岡 病 院	静岡県精神障害者地域移行支援者連携事業 静岡県精神障害者地域生活支援訪問事業 富士市認知症初期集中支援推進事業 認知症の人をみんなで支える地域づくり推進事業
沼津リハビリテーション病院	生活機能向上連携（愛の家）理学療法士派遣 駿東田方地域リハビリテーション強化推進事業 支援センター 第 64 回 静岡リハビリテーション懇話会
社 会 復 帰 事 業 部	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業 重層的支援体制整備移行事業（長泉町）

VIII. 職員配置状況

沼津中央病院

令和6年3月31日現在

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	17		3	1			18		3
看護職	110	6	12	-5	1		105	7	12
介護職	24	5	2	-2			22	5	2
医療技術職	23		4	-2		1	21		5
福祉職	9		1				9		1
事務職	15	2		1	-1	1	16	1	1
労務職	19		1	-2	1	1	17	1	2
合計	217	13	23	-9	1	3	208	14	26

大手町クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	6		2	-1	1	-1	5	1	1
医療技術職	1						1		
福祉職	1						1		
事務職	3			-1			2		
合計	12		2	-2	1	-1	10	1	1

あたま中央クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	2						2		
事務職	2			-1			1		
合計	5			-1			4		

訪問看護ステーションふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	9	1		-1			8	1	
合計	9	1		-1			8	1	

鷹岡病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	8	1	1			1	8	1	2
看護職	47	2	14	2		-2	49	2	12
介護職	18	2	3	-2	1	1	16	3	4
医療技術職	13		4	2			15		4
福祉職	10			-2		1	8		1
事務職	12			1	1		13	1	
労務職	11		3	1		-1	12		2
合計	119	5	25	2	2		121	7	25

富士メンタルクリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職		1	1					1	1
看護職	2	1					2	1	
医療技術職	2						2		
事務職	3	1		-1			2	1	
合計	7	3	1	-1			6	3	1

沼津リハビリテーション病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	3		17	1		8	4		25
看護職	38	2	9	-1	1	-3	37	3	6
介護職	34	2	4	-3	2	-1	31	4	3
医療技術職	50		5	1		1	51		6
福祉職	4			-2			2		
事務職	12		1				12		1
労務職	8		6	1		-2	9		4
合計	149	4	42	-3	3	3	146	7	45

訪問看護ステーションうしぶせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	4		1	1			5		1
医療技術職	1						1		
合計	5		1	1			6		1

サポートセンターなかせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4		3				4		3
合 計	4		3				4		3

サポートセンターりりふ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			2			-1			1
福祉職	3						3		
合 計	3		2			-1	3		1

サポートセンターゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	5		1	-1			4		1
労務職			1			-1			
合 計	5		2	-1		-1	4		1

サポートセンターほっと

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4			-1			3		
合 計	4			-1			3		

サポートセンターひまり

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4						4		
合 計	4						4		

カーサ岡の宮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		1						1	
事務職		1						1	
合 計		2						2	

はまゆう寮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1						1
福祉職			1						1
合 計			2						2

グループホームふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
介護職			1						1
合 計			2						2

コーポ狩野

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		2	2			-1		2	1
福祉職	3			1			4		
合 計	3	2	2	1		-1	4	2	1

就労支援事業所かのん

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1			-1			
福祉職	4		2			3	4		5
労務職			4						4
合 計	4		7			2	4		9

ワークショップまごころ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1			-1			
介護職		1	2			-1		1	1
福祉職	2		2			2	2		4
合 計	2	1	5				2	1	5

就労支援事業所田方・ゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	2		1			1	2		2
事務職			1						1
労務職			1			1			2
合 計	2		3			2	2		5

本 部

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職				1			1		
事務職	8	1		-1			7	1	
合 計	8	1					8	1	

合 計

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	30	2	22	2		9	32	2	31
看護職	218	12	40	-5	3	-7	213	15	33
介護職	76	13	18	-7	3	-4	69	16	14
医療技術職	90		13	1		2	91		15
福祉職	55		11	-4		7	51		18
事務職	55	5	2	-2		1	53	5	3
労務職	38		16		1	-2	38	1	14
合 計	562	32	122	-15	7	6	547	39	128

※管理者含む

以上